

経営課題

小ロット多品種への対応



課題解決策

デザイン企画から生産、販売管理までの情報共有



ITによる課題解決策

デザインから製造までの「一気通貫システム」



代表取締役 岸村裕子社長



本社・事務所



中国・大連事務所外観

代表者：岸村 裕子

本社所在地：兵庫県西宮市六湛寺町
12-10

サングリーンビル3階

売上高：2.8億

従業員：10名

創業：2000年7月

【和喜愛逢】

和 社会との密接な繋がりを重視し、責任を持ち信頼を得ます。
個々の特性を生かした社員の調和によって支えられ、又それらの社員は大切な財産です。

喜 自信と誇りを持って活動する事に喜びを感じます。

愛 世界の人々に広く愛される商品やサービスの提供を目指します。

逢 出逢いを大切にします。

社長業に専念したい！

社長の困りごと

- 1.消費者ニーズの多様化によって春夏物と秋冬物の年2回の供給が、春夏、夏、秋冬、冬、と年4回の供給体制を取らざるを得ず、生産体制が輻輳し業務プロセスが煩雑化されミスが発生を招く。
- 2.デザイナーは、事務处理的な作業に追われ残業も多いため、本来の業務である新しいデザインの研究や、品質のよいデザイン作り等に専念できず、デザイナーの創造性が発揮できない可能性がある。
- 3.そして、一番の課題は、社長が社長業である経営戦略や事業計画をじっくり検討する時間がなくなっていることにあった。

きっかけは？

- 1.取引銀行に相談したところ、経営課題の解決が得意な方(ITコーディネータ)がいるので紹介して頂いた。
- 2.ITコーディネータと相談し、経営的な根本的課題を経営戦略から情報システムに落とし込んで解決する方向を立案した。
- 3.実施には、「IT推進アドバイザー制度」の利用や、「IT活用型経営革新モデル事業補助金」を利用させて頂いた。

こうして解決した

まず、どこに問題点があるのか、原因の解明を図るため業務プロセスの洗い出しを行った結果、下記の課題が明確になった。

- 1.ひとつのデザインが決まるまでに多くのデザインが描かれ、どれが確定したデザインなのかが不明である。そのため、企画と生産の間で問い合わせ作業が発生して時間のロスが多い。
- 2.企画部門と生産部門の接点である「資材企画」の情報共有ができていないため、打合せ等に時間が掛かっている。
- 3.売上傳票の出力もデータが共有されていないので遅くなり、販売管理面で問題点が多い。

そこで、上流工程であるデザイナーの企画段階から、下流工程である製造や販売管理部門まで、データの一元化を図り、社内外業務の「一気通貫」化を図った。

社長の一言

- ・社内業務プロセスを上流から下流まで一気通貫できたので、時間的ロスやミスも大幅に削減できた。
- ・時間的な削減が行えたため、新規顧客の開拓などで売上は2007年度比で90%アップとなった。

経営者の気づき
フェーズ事例経営戦略
フェーズ事例IT戦略策定
フェーズ事例IT資源調達
フェーズ事例IT導入
フェーズ事例ITサービス活用
フェーズ事例

こうして経営課題を解決した

～デザインから製造までの「一気通貫システム」～

1. 上流工程であるデザイナーの企画段階からのデータベース化
2. 生産に必要な帳票類も、上流段階からデータベース化
3. 上流のデータベース化によって、下流工程である製造部門で必要な帳票類を円滑にかつ正確にアウトプット
4. 生産工程を短くしたので、季節単位で輻輳業務が減り、トラブルの解消や生産性が向上
5. デザイナーから生産部門まで情報共有が図れることで、売上データの管理等の迅速化
6. 上流から下流までの作業の一元管理が重要であることの社内の認識ができ、納期の短縮が今後のアンドールにとって重要課題であるという社内意識の統一

課題解決のポイント

◆ 業務プロセス再構築へのIT活用

1. 上流工程から下流工程までボトルネックをなくすことにより、社内の工程全体のスピードアップを実現
2. 社内にあるデータをデータベース化することにより、情報の共有化が図り、正確性や生産性を向上
3. 生産工程を短くしたことにより、季節単位で輻輳する業務が減り、トラブルの解消や生産性を向上

◆ IT活用による取引情報・顧客情報の分析と新製品・新サービス企画への利用

1. 顧客情報分析により、的確なニーズの把握
2. デザイナーやパターンナーなど主要な部門の効率化により、新しい流行の把握チェックや新しい製品開発・研究の時間を確保

◆ ノウハウ蓄積・伝承へのIT活用

デザイナーが行っている企画デザインがデジタル化し、かつデータベース化してパターン化できたことにより、新入社員を配属しても一定レベルの製品であれば即戦力としてデザイン企画が可能になり、暗黙知の形式知化を実現

◆ 経営者の経営戦略立案の余裕を生んだ

残業時間の削減などにより、社内全体の効率化が進んだため、新たな事業計画立案等の企業成熟度向上

IT活用成功のポイント

1. 関係する社員全員が取り組みにより業務プロセスを描き、要している時間やエラー発生度、生産性を元に、社内で何がボトルネックかを見つけ出したこと
2. 見つけたボトルネックを解消するための手段(代替案)を洗い出したこと
3. 代替案から、アンドールの経営資源を考慮に入れ、パソコン用のアプリケーションソフトで作成すること(大規模なシステム開発は避けた)
4. システム導入による予測効果も考慮し、定量的、定性的効果目標を決め開発を行ったこと

【成果】

1. デザイナー一人あたり平均残業時間が、月40時間から10時間に短縮
2. ファーストサンプル作成のための工場への依頼書類作成時間が、約3時間から15分に短縮
3. 見積書作成時間が、約2時間から15分に短縮
4. 残業時間の短縮や、エラーやミスの削減が実現したため、社員全員に余裕が生まれ、職場環境のモチベーションが向上

活用した公的施策や表彰等

- ・中小企業基盤整備機構 IT推進アドバイザー制度
- ・2006年 IT活用型経営革新モデル事業補助金
- ・2006年 経済産業省 IT経営百選奨励賞 受賞
- ・2007年 関西IT経営百撰IT活用企業 入選
- ・2008年 経済産業省 IT経営実践企業 認定

サポーター紹介



■ 森下 勉

ITコーディネータ
認定番号:0006132001C
有限会社 ツトム経営研究所
E-Mail morishita@dream.email.ne.jp

<キャッチフレーズ>

中小企業診断士としても、約10名のメンバーで、経営計画の立案や経営革新、ISO認証支援、最近では知的資産経営推進の支援等、ワンストップ体制で数多くを実施しています。